

## 1 大学入学共通テストがありました

昨年度よりセンター試験に代わって導入された大学入学共通テスト（以下共通テスト）が1月15日（土）、16日（日）に行われました。穂ヶ丘高校では約46人が3会場に分かれて受験しました。本号は共通テストを含めた一般選抜特集です。



## 2 大学入学共通テストについて確認しよう

大学入試センターが行い、全国一斉に同一問題で実施する試験です。原則的にすべての国公立大学で必須の一次試験となります。また、私立大においても共通テストの結果を利用して合否を決める「共通テスト利用方式」を採用する大学が増えています。全問マークシート方式で行われ、志望する大学に合わせて、必要な科目を選択して受験します。本校では、7月から1月にかけて共通テスト説明会を5回実施し、受験手続を進めます。



### [参考]今年度の大学入学共通テストまでの流れ

- 7月 8日(木) 第1回 共通テスト説明会（受験手続きの流れの説明）
- 9月 2日(木) 第2回 共通テスト説明会（受験案内配布、書き方指導）
- 9月 24日(金) 出願書類校内締め切り→大学入試センターへ一括送付
- 10月 27日(水) 第3回 共通テスト説明会（「確認はがき」配布）
- 12月 16日(木) 第4回 共通テスト説明会（「受験票」配布）
- 1月 13日(木) 第5回 共通テスト説明会（受験上の注意事項確認）
- 1月 15日(土) 大学入学共通テスト（1日目）
- 1月 16日(日) 大学入学共通テスト（2日目）
- 1月 17日(月) 自己採点提出



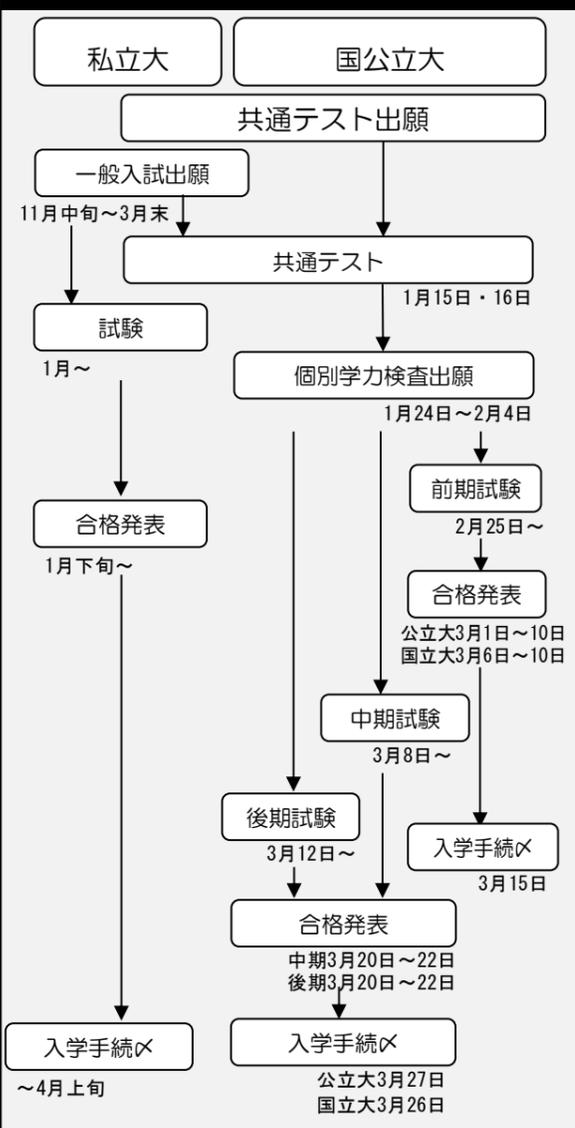
### 意識しておいて欲しいこと

※卒業見込みが立たない生徒は受験資格がありません。学校生活をしっかり送りましょう。  
 ※9月の出願で受験科目を登録します。後から変更することは基本的にはできませんので、希望大学の入試にどの教科・科目が必要か、募集要項などで早いうちから調べておきましょう。

共通テスト受験後は発表された解答や配点を見て自己採点を行います。国公立大を受験する人は、その自己採点結果をもとに出願大学を検討します。共通テストの正式な点数は4月以降に通知される(希望者のみ)ので、出願校決定時に頼りになるのは「自己採点」のみです。「自己採点では700点だと思ったから〇〇大学を出願したのに、4月に結果を確認したら670点だった。他の大学を出願すればよかった…」などということにならないよう、自己採点のトレーニングをしておく必要があります。模試などで自分の解答を問題冊子に書き込んでおく習慣をつけ、採点結果のズレがないか毎回確認しましょう。

## 3 一般選抜が本格スタート！一般選抜について確認しよう

### [参考]今年度の一般入試スケジュール



さて、共通テストが終わり、一般選抜が本格的に始まっています。受験生の皆さん、これまでの努力が発揮できるように、体調を整えて頑張ってください。直前期にやるべきことは人それぞれなので、人と比べて落ち込んだり焦ったりすることなく、自分に必要なことを見極めてやり抜いていきましょう。では、一般選抜について確認していきます。

### 国公立大

- ① 1次試験として共通テストを受験する。
- ② 共通テストの自己採点結果を参考に出願する大学を決める。
- ③ 大学が独自に実施する2次試験を受ける。「前期日程」「後期日程」「中期日程」が実施され、最大3校の受験が可能。  
 ※大学によって「前期」「後期」「中期」のいずれかを実施しないこともあるので注意。特に「中期日程」を実施する大学は限られている。  
 ※第1志望校は前期日程で受験するのが一般的。後期日程は定員が少なく志願倍率が高くなる傾向にあるが、実際は前期日程合格者が受験しないことも多く、合格のチャンスはある。

### 私立大

- 出願時期、入試方式、試験日が大学によって異なる。また、同じ大学の中でも様々な入試スタイルがある。
- 試験日自由選択制…同一学部・学科で、試験日を2日以上設定し、受験生の都合のよい日に受験できる制度。
  - 方式別入試…同一学部・学科で、入試科目や配点などが異なる複数の選抜方法から選択して受験できる制度。
  - 全学部統一入試…学部ごとの試験日のほかに、全学部の入試を同一日に一斉に行う制度。
  - 地方入試（学外試験）…大学の所在地以外の地域に試験会場を設けて行われる入試。
- こまめに情報収集を行い、自分の特性を考えながら受験計画を立てることが必要となる。

左のスケジュールでも明らかかなように、一般受験は複数の大学を同時進行で受けていくことが多く、大変ハードな日程になります。スケジュール管理や、「前の受験結果を気にせず次に向けて取り組む」という気持ちの切り替えを少ない時間の中で行う必要があります。また、受験料・交通費など、経済的な負担が伴うので、「どんな大学を何校受験するのか」という受験計画を保護者ともしっかりと話し合っておく必要があります。次年度以降卒業予定の皆さんも、受験生として好スタートを切れるよう、志望校、併願校、必要な科目、重点的に勉強すべき科目などを熟考しておきましょう。